

平成14年10月18日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田良一

授業アーカイブシステムの運用開始について

この度、情報メディア教育研究センターでは、大学の知識情報のコンテンツ利用方法を検討するため、別紙のとおり授業アーカイブシステムの運用を開始いたしましたのでお知らせいたします。

なお、このシステムは、本年度前期に試験運用を行い、後期から授業の自動アーカイブ運用を実施しております。

【お問い合わせ先】

広島大学情報メディア教育研究センター
助教授 児玉明
TEL: (0824) 24-6542
(ダイヤルイン)

[発信枚数; A4版 3枚(本票含む)]

○[システムの目的・概要](#) ○[システムのイメージ](#)

連絡先 広島大学情報メディア教育研究センター
児玉 明 0824-24-6542 FAX 0824-31-4855

平成14年10月18日

授業アーカイブシステム

広島大学 情報メディア教育研究センター

●目的

広島大学では、地域社会への貢献、国内・海外の大学間の教育・研究における連携を強化すべく、大学内の知的財産・知識情報の活用を検討しています。現在、広島大学では、IT技術を利用した双方向遠隔授業を東広島キャンパスと東千田キャンパス間で実施しています。

このような中で、広島大学 情報メディア教育研究センターでは、大学の知識 情報を大学の貴重な財産と捉え、授業というコンテンツを利用した学生への高度 教育サービス、及び、教官への教育支援サービスを見据えた、授業アーカイブシステムの運用を開始しました。

将来、情報配信したり、情報交換したり、情報検索したりなど、授業コンテンツとしての高度な利用価値を見いだすべく、キャンパス内・キャンパス間での利活用実験を行います。2002年は、特に、授業という「コンテンツ」に焦点をあて、現状のシステムを活用した、授業アーカイブシステムを実験・運用し、将来拡張を視野に入れたシステムモデル作成を行います。2年後も本格運用できるシステム構築・運用体制の確立を目的とします。

□ 本年度から来年度のサービス目標

記録授業映像の学生、教官への貸し出し、閲覧、再学習、高度学習のサポート体制の構築(地域連携を考慮したシステムプロトタイプ提示)

□ 将来のサービス目標

記録授業映像から厳選した授業コンテンツによる生涯学習など地域貢献への利活用を予定

●概要

現状では、東広島キャンパス、東千田キャンパスと約30km離れたキャンパス間に、それぞれの教室に学生が受講している環境で、法学部・経済学部が双方向授業を行っている。その利点を活用し、講師がどちらのキャンパスで講義を行っても、ネットワーク上を流れる双方向授業用の映像を当センターのアーカイブサーバに吸い出し授業録画可能な実験システムを構築しました。高品質な授業映像(MPEG-2)は、DVD-Video化できることを当初目標とし、また、授業で撮影している資料用映像や教室内映像などは別途簡易映像(MPEG-4)として蓄積し、その利活用方法を検討するものです。

前期に、9コマ(1コマ90分)約100コンテンツ(情報量約600GB)を記録しました。後期は10コマの授業記録を予定し、また、その他、講演などの映像情報の記録も検討しております。

大学のすべての講義で約6000コマの授業がありますが、2年間で100コマずつの授業映像コンテンツの記録強化を狙ってゆきたいと考えています。コンテンツの記録、閲覧、検索、配信などの様々な機能について、機器・運用などのコストを考慮した数十TB以上の記憶容量を有するコンテンツデータベースシステム構築を検討しています。

将来は、遠隔授業と独立運用できるアーカイブシステム構築とともに、遠隔授業環境の有無に

関わらず、情報コンセントを利活用したアーカイブシステムの構築を目指します。

また、学生からの意見を採り入れるため、学生ボランティア、学生アルバイトなど積極的に学生と連携したアーカイブ運用体制を検討してゆきます。

現在利用できる授業アーカイブシステムにおいて次のコンテンツ閲覧が可能です。

- 授業録画リストを提示し、選択し授業が閲覧できる。
- 授業録画中の教室をモニタ表示できる。
- 過去の蓄積された授業コンテンツをDVD-Videoで再生できる。
- 授業コンテンツに検索用メタデータが付与された情報を閲覧表示できる。

授業アーカイブシステム

広島大学 双方向遠隔授業システムの活用

